

改正育児・介護休業法が10月1日に施行されました

今年3月31日、育児・介護休業法の改正を含む「雇用保険法等の一部を改正する法律案」が第193回通常国会において成立しました。このうち、育児・介護休業法部分については今年10月1日から施行されました。

育児休業期間の延長

現行の育児休業では、4月から9月生まれの子の場合、1歳6カ月まで育児休業を取得しても、一般的な保育所の入所時期である4月に届かず、職場復帰を諦めて離職せざるを得ない方が一定数存在すると考えられます。そこで、子の生まれ月による不公平を是正し、保育所等を利用できないために離職せざるを得ない事態を防ぐことを目的とした緊急的なセーフティネットとして、保育所に入れない場合等には最長で子が2歳に達するまで育児休業を延長できるとしました。

育児休業等の制度の個別周知の努力義務化

労働者が育児休業を取得しやすい職場環境をつくるため、事

業主が育児休業等の対象者を知ったときには、当該対象者に育児休業等の制度を個別に周知することを努力義務としました。

育児目的休暇制度の努力義務化

配偶者の妊娠や出産に際して男性が取得した休暇制度に関する調査では、育児休業制度以外の休暇が多く利用されています。これを踏まえ、特に男性による育児を促進するため、子が小学校に就学する前まで利用できる、育児を目的とした休暇制度を設けることを努力義務としました。

※育児・介護休業法について、詳しくは厚生労働省ホームページ「育児・介護休業法について」をご覧ください。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000130583.html>

仕事と育児の両立、仕事と介護の両立のための支援事業のご案内

<p>育児休業取得や介護離職でお困りのことはありませんか？ 育児・介護プランナーがお手伝いします！（無料）</p>	<p>「仕事と介護の両立支援に関するシンポジウム」開催のご案内 ～厚生労働省委託事業「平成29年度仕事と介護の両立支援事業」～</p>
<p>育児休業を取得予定の従業員がいる事業主や、従業員の介護離職を防ぎたいとお考えの事業主に対して、社会保険労務士などの資格を持つ育児・介護プランナーが、円滑な育児休業・介護休業等の取得から職場復帰までの取り組み方法について、訪問してアドバイスをします。</p> <p>また、全国で「中小企業のための育休復帰支援セミナー」「仕事と介護の両立支援セミナー」を開催し、プランナーの支援を受けられた事業主の声とともに従業員の仕事と育児・介護の両立のために企業が取り組むべきことをお伝えしています。セミナー後には、希望者に対して個別相談会を開催しますのでご利用ください（事前申込制・参加無料）。</p> <p>ご興味をお持ちの方はセミナーにぜひご参加ください！</p> <p>※ 申込方法など詳細はこちらをご参照ください。 株式会社パソナ 育児・介護支援プロジェクト事務局（委託先） http://ikujikaigo.com/</p>	<p>要介護者が増加するなか、仕事と介護を両立するポイントは、介護休業や介護休暇、短時間勤務などの両立支援制度と、地域で提供される介護サービスを上手に組み合わせることです。しかし、介護に直面した従業員をどのように支援していくか、お悩みの企業も多いのではないのでしょうか。</p> <p>このシンポジウムでは、有識者による講演のほか、企業の人事担当者やケアマネジャーも交え、介護に直面した従業員への支援を中心に、両立支援のポイントを議論します。経営者・人事担当者や、介護支援を担う地域包括支援センターの職員、ケアマネジャーをはじめ、仕事と介護の両立支援に関心のある方ならどなたでもご参加いただけます。皆さまのご参加をお待ちしております（事前申込制（先着順）・参加無料）。</p> <p>【開催日時・会場】（全会場共通 13:30～16:30）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇東京 10月11日（水）浜離宮朝日ホール 小ホール ◇愛知 10月17日（火）TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋新幹線口 バンケットホール 7A ◇大阪 10月23日（月）ハービスホール 小ホール <p>※ 申込方法など詳細はこちらをご参照ください。 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社（委託先）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京会場：http://www.murc.jp/sp/1708/symposium/tokyo.pdf ・愛知会場：http://www.murc.jp/sp/1708/symposium/nagoya.pdf ・大阪会場：http://www.murc.jp/sp/1708/symposium/osaka.pdf